

平成27年度

# 第2回国有林モニターアンケート 結果概要

東北森林管理局では、開かれた「国民の森林」の実現に向け、国民の皆様の意見等の適確な把握とそれらの意見を反映した管理経営の推進のための取組の一つとして国有林モニター制度を設けています。

この度、平成28年2月～平成28年3月に、平成27年度第2回国有林モニターアンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。なお、自由記述の意見については、抜粋・整理して掲載しております。

## ○お伺いした項目

- 1 国有林モニターについて
- 2 「今月の特集(送付資料)」について
- 3 国有林について

## ○ アンケートの実施概要

- 発 送 : 平成28年2月12日  
回答期限 : 平成28年3月 4日  
回 答 率 : 69%(42人中29人回答)

※今回より、希望される方には電子ファイルでのアンケート配布・回答を実施。  
回答された29人中5人の方が電子ファイルを用いてメールにより回答。

ご協力いただきました国有林モニターの皆様に、厚く御礼申し上げます。

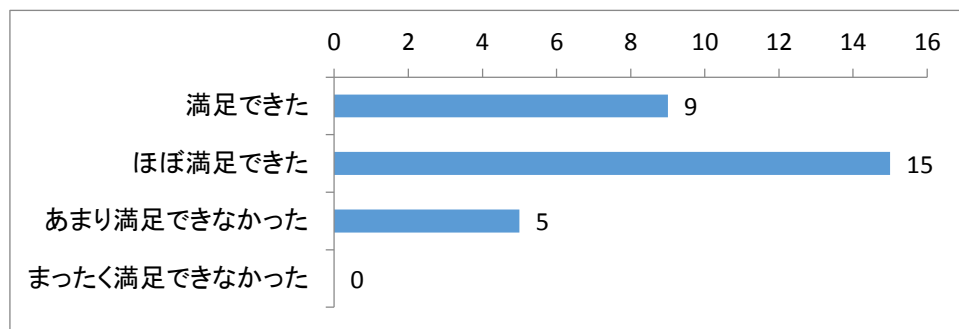
国有林モニター制度とは、アンケートの実施や国有林モニター会議の開催を通じて意見を伺うほか、広報・パンフレット等で情報提供を行うなど、国民の皆様と国有林との間で、双方向の情報受発信を行う取組です。

平成26年4月～平成28年3月までの2年間を任期として、管内5県の42名の方にモニターに着任して頂いております。

# 1 国有林モニターについて

2年間の国有林モニター活動全般について、次回以降の参考とするためにご意見・ご感想をお聞きしました。

問1 この2年間を振り返って、モニター活動はいかがでしたか？



問2 問1で答えた理由を教えてください。

(自由記述)

【満足できた、ほぼ満足できた の理由】

- ・現地見学会に参加出来て良かった。
- ・林野庁の取組を知ることができた。
- ・多くの資料を送付してもらい、森林・林業に関する知識が深まった。
- ・他のモニターと知り合うことができた。

【あまり満足できなかった の理由】

- ・新しい知識を得ることはできたが、それをあまり生かせなかった。
- ・現地見学会や意見交換の場が少なかった。
- ・現地見学会の案内が急であることが多く、参加できないことがあった。

問3 モニター活動として実施している資料による情報提供や各種イベントへの参加以外に、モニターとしてやってみたい活動があれば教えてください。

(自由記述)

- ・森林パトロールなどボランティア活動。
- ・シカ対策など特定の課題に関するモニター活動。
- ・木材加工施設や木造建築物の見学。
- ・林野庁の現場職員(森林官等)も含めた意見交換会。
- ・林業で成功した人、失敗した人の意見を聞くこと。

#### 問4 モニターになって良かったと思うことがあれば教えてください。

(自由記述)

- ・日本の森林・林業について知ることが出来た、関心が高まった。
- ・森林・林業について多少は知識があったが、現地見学会に参加し、現地を見たり現場で仕事をしている人の生の声を聞いたりすることで、森林・林業についてより理解が深まった。
- ・自分の意見を伝えることが出来た。
- ・山や森林に行く機会が増えた。
- ・シカによる被害の深刻さを知ることが出来て良かった。

#### 問5 モニター活動を行って物足りなさを感じたこと、当初抱いていたイメージと違ったことがあれば教えてください。

(自由記述)

- ・モニター間の交流のためにも、意見交換の機会をもっと設定して欲しかった。
- ・机上での勉強会があると思っていた。
- ・もっと現地見学会が多い、もしくは森林活動の場があると思っていた。
- ・植樹などの体験活動をもっと設定して欲しかった。
- ・自分の地元の実態を知る機会が欲しかった。

#### 問6 2年間で振り返って、ご意見・ご感想があればお願いします。

(自由記述)

- ・モニターにならなければ見ることの出来なかったであろうものを見られて良かった。
- ・毎月送られてくる広報誌等が良かった。
- ・今後もなんらかの形で森林・林業に関わっていきたい。
- ・モニターとして得た知識を友人や職場の同僚などと共有していきたい。
- ・モニターをもっと長く続けたかった。
- ・現地見学会、モニター会議の回数が少なく物足りなかった。

## 1 国有林モニターについて まとめ

2年間の活動について、「満足できた」とお答えになった方が29人中9人(31%)、「ほぼ満足できた」とお答えになった方は15人(52%)となり、8割以上の方が満足していらっしやることが分かりました。一方で5名(17%)の方が「あまり満足できなかった」と回答され、「現地見学会の回数が少なかった」こと等、現地見学会や意見交換の機会の少なさが理由として挙げられました。

モニターになって良かったこととしては、「森林・林業について知識を得ることが出来た」といった回答をいただきましたが、一方で「もっと現地見学会に参加したかった」「机上の勉強会があっても良かった」等の意見もいただきました。

また、モニターとして今後行ってみたい活動としては、「森林パトロール」や「木材加工施設、木造建築物の見学」、「モニター同士の意見交換会」等の意見をいただきました。

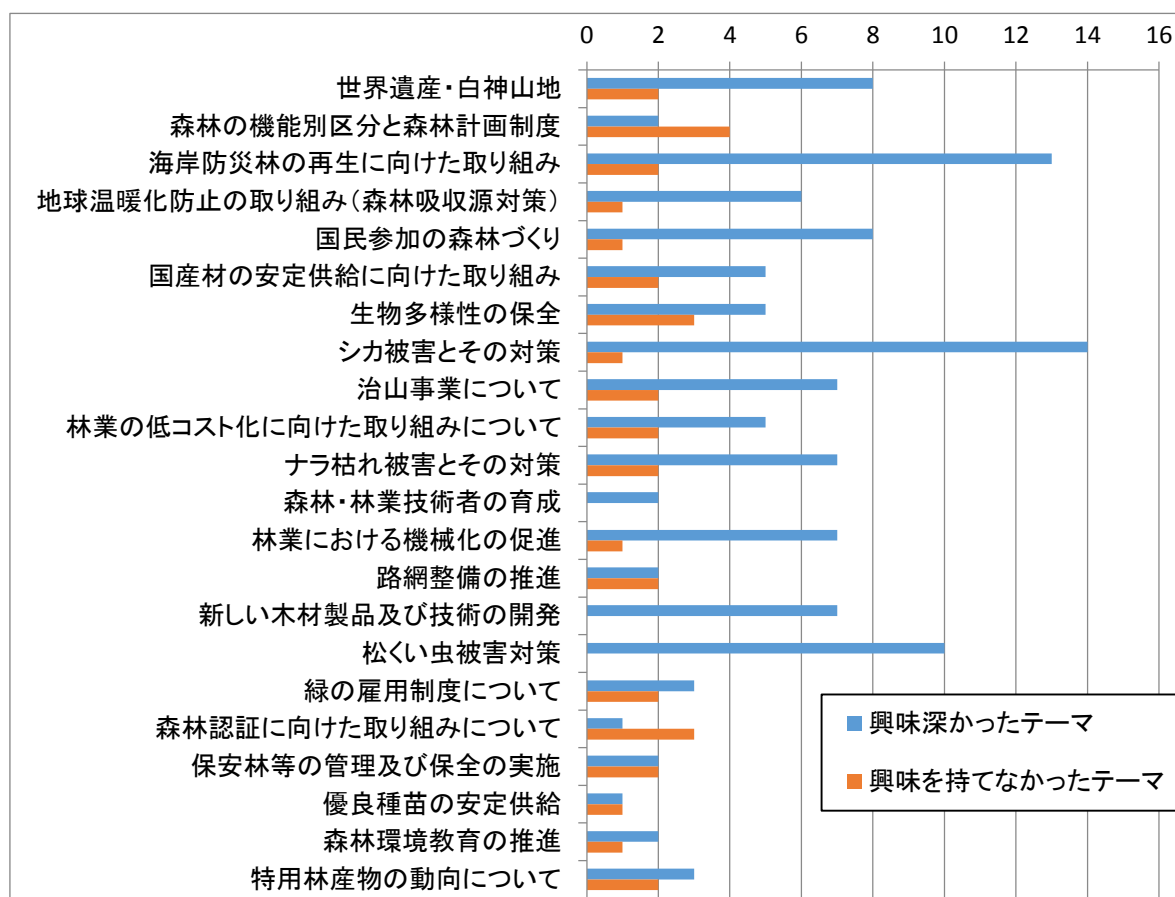
多くの方に、モニターとしての2年間の活動に満足いただきましたが、今後は、現地見学会等に参加出来る機会を増やす工夫を行う等により、モニターの活動により満足いただけるよう努めてまいりたいと考えております。

## 2 今月の資料について

モニターの方々に毎月送付させていただいております、森林・林業の基礎的な情報や話題について紹介する「今月の特集」について、次回以降の参考とするためにご意見・ご感想をお聞きました。

問1 興味深かったテーマ、興味を持てなかったテーマを教えてください。

(複数選択回答)



問2 組んで欲しかった特集、またはさらに詳しい情報が欲しかったテーマがあれば教えてください。

(自由記述)

- ・木質バイオマスエネルギー、セルロースナノファイバーといった木材利用の最新の取組。
- ・森林の病虫獣害被害対策。
- ・森林環境教育の推進。
- ・民有林の現状、今後の見通し。
- ・地域の巨木。
- ・森林認証について。
- ・海外の森林・林業。

## 2 今月の資料について まとめ

興味深かったテーマとしては、「シカ被害対策」が29人中14人(48%)、「海岸防災林の再生」が13人(45%)、「松くい被害対策」が10人(34%)となり、近年東北地方で問題となっており対策を実施しているものについて関心を持っていらっしゃる方が多いことが分かりました。

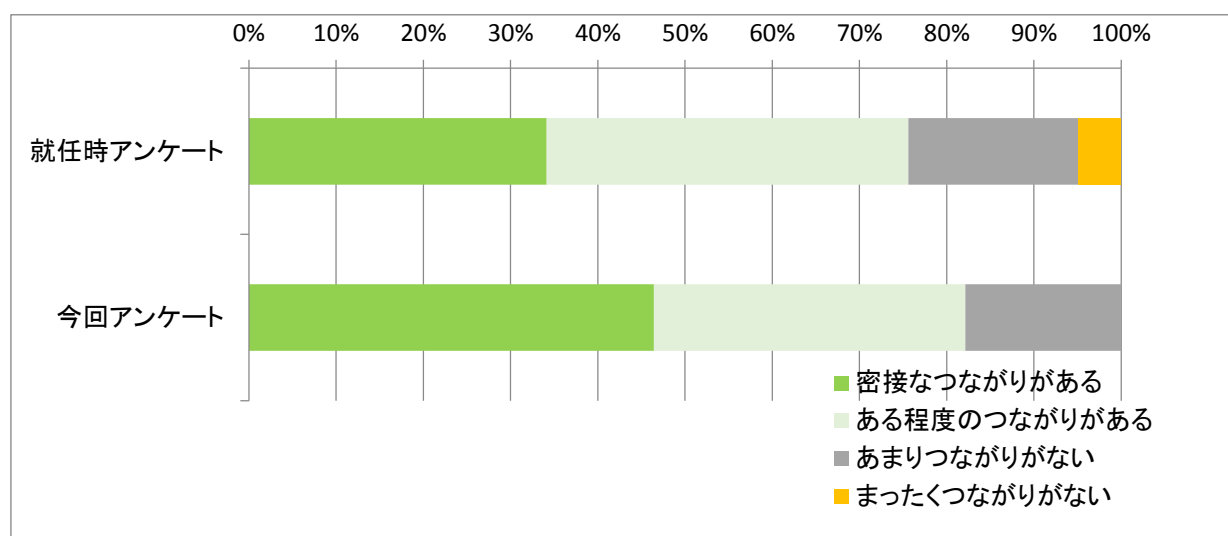
一方で「森林の機能別区分と森林計画制度」や「森林認証制度」については興味深いとお答えになった方が少なく、かつ興味を持っていないとお答えになった方が多くなりました。森林に関する制度は、森林・林業にとって非常に重要ではありますが複雑で難しい内容であり、一般の方に興味を持っていただくためにも、今後は工夫して紹介出来ればと考えております。

また、より詳しく知りたかったテーマとしては、木質バイオマスエネルギーといった木材利用の最新の取組、森林の病中獣害被害対策等、幅広い分野の回答があったので、今後のテーマ選びの参考にさせていただきます。

## 3 国有林について

国有林に対するイメージ等について、モニターを経験されたことでどのように認識が変わったか等を調べるため、モニター就任直後のアンケートと同様のアンケートをとりました。

問1 ご自身の普段の暮らしと、国有林との関係について、どのように感じられますか。また、そう感じられる理由を教えてください。



(自由記述)

【密接なつながりがある、ある程度につながりがある の理由】

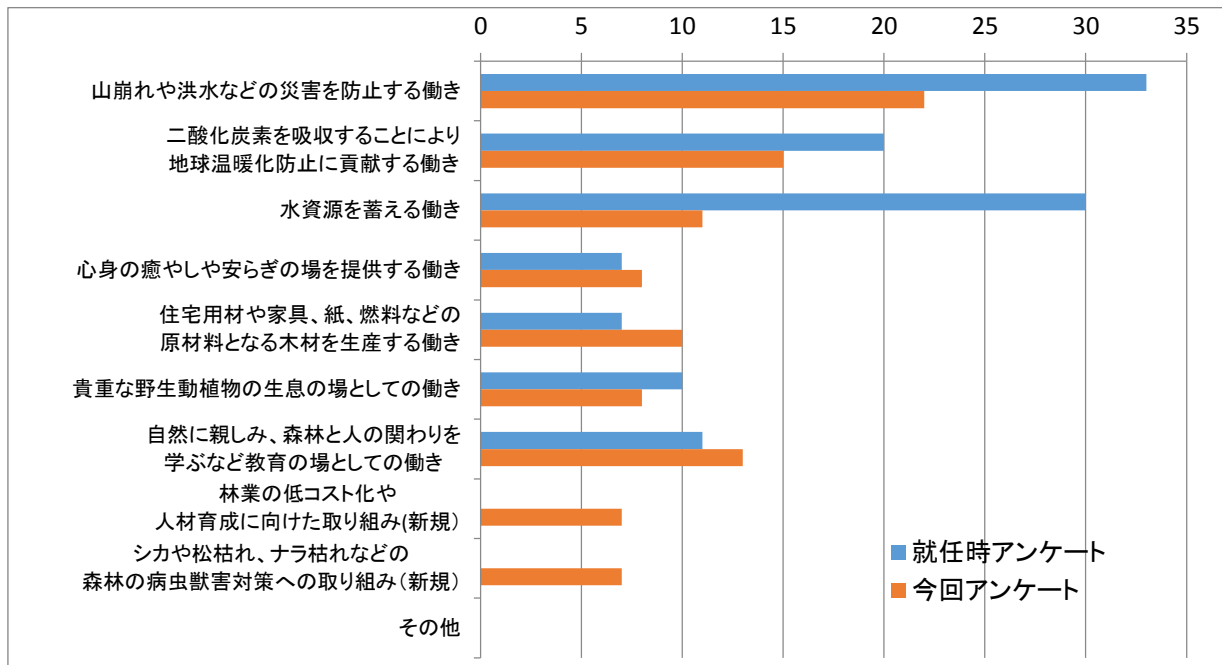
- ・国有林は、水資源の確保、土砂災害の防止、地球温暖化の防止等の多面的な機能を持ち、国民の暮らしを支えているから。
- ・モニターの活動を通して、国有林は、水資源確保、土砂災害防止、地球温暖化防止等の役割を担っていることを知ったから。
- ・生活をしていく上で、森林は密接につながりがあるから。
- ・身近に国有林があるから。
- ・日常生活において、木材の利用、木製品の使用は必要不可欠であるから。
- ・身内が林業従事者であるから。
- ・森林ボランティアに参加しているから。
- ・趣味で登山、山歩きをしているから。
- ・新聞で森林の被害に関する記事を目にするから。

【あまりつながりがない、まったくつながりがない 理由】

- ・国有林がどのくらい国民の生活に結びついているかよく見えなかったから。
- ・日常の生活に国有林との接点を見いだしづらいから。

問2 国有林が今後、どのような働きを果たすことを期待しますか。

(複数選択)



問3 国有林野事業の主要な取組について、モニター活動等この2年間を通じて感じたことをお聞かせください。

【山崩れや地すべり防止、海岸防災林の復旧など、地域の安全・安心な暮らしの実現に向けた取組】

- ・東日本大震災のような災害が起きないことを願います。
- ・(海岸防災林の現地見学会等を通して)国民の目が届かないところで、国土を守っていることが分かった。
- ・治山事業は地域のためだけではなく、地球温暖化の防止にも資するため、林業活動として最も重視すべきである。
- ・災害復旧の取組について定期的な報告があれば国民も感心を持っていただける。
- ・近年、ゲリラ豪雨等多発しているので、今後も対策をしっかりと行うべき。
- ・国・県・市町村の各主体がしっかりと取組を進めるべき。
- ・日々の生活の中で周囲にも大切さを伝えていくことが重要。

【二酸化炭素を吸収することにより地球温暖化防止に貢献する働き】

- ・間伐をすることで二酸化炭素吸収能力がさらに向上するので、今後も間伐を継続してほしい。
- ・改めて木の大切さを実感した。
- ・二酸化炭素を大量に排出する車社会では特に大切な働きだと思う。
- ・森林の二酸化炭素吸収効果等を積極的に情報発信するべき。
- ・発展途上国への協力も重要。
- ・セルロースナノファイバー等、技術革新を伴った二酸化炭素排出対策が資源のない日本には重要だ。
- ・伐期を迎えた森林は積極的に伐採して若い森に生まれ変わらせることが重要。

【水資源を蓄える働き】

- ・森林を守ることが水資源を守ることになることが分かった。
- ・今まで何不自由なく使っていた水がなくなっていたら大変ということをもっと理解するべき。
- ・治山・治水事業の促進が重要。広葉樹林の育成、維持管理も重要。
- ・森林の貯水機能の維持のため、水源林をしっかりと守るべき。
- ・山から海のつながりをもっと意識するべき。

【心身の癒やしや安らぎの場を提供する働き】

- ・夏の海水浴に行く感覚で森林浴も身近になればと思う。
- ・森林がもっと気軽に行ける場所になれば良いと思う。
- ・日帰りでも簡単に参加できるような場所を整備してほしい。
- ・山奥に施設が作られているが、ちゃんと活用しているか、PRが適切かを再検討するべき。



【住宅用材や家具、紙、燃料などの原材料となる木材を生産する働き】

- ・日本は木の文化であり、もっと木について情報発信すべき。
- ・既存の非木材製品を木材に代用出来る可能性は十分にある。
- ・間伐材の利用促進にとって重要。
- ・割り箸が一時期悪く思われていたが、森林を無駄なく使えるので良いと思う
- ・森林資源の活用を通じて山村地域の活性化にも貢献できれば良いと思う。
- ・もっと木材利用が促進されるよう行政側の後押しが重要。
- ・木材の生産には限度がある。原材料については採算のあう特殊材に特化した思い切った政策も必要。

【貴重な野生動植物の生息の場としての働き】

- ・野生生物と農業、林業の調和が課題だと思う。
- ・生活している人たちとの共生を考えることが重要。
- ・野生生物保護の取り組みは大切。もっとアピールすべき。
- ・漫画やアニメ等で若い人への周知も必要と感じる。

【自然に親しみ、森林と人の関わりを学ぶなど教育の場としての働き】

- ・森林づくり体験をもっと実施することで興味を持った人が生業とするかもしれない。
- ・小学校～高校まで長期間、林業学習に関われるようにすべき。
- ・自然に関するイベント＝老人が参加 ではなく、子供たちが関われるようにすべき。
- ・国民一人一人に今以上に関心を持ってもらいたい。そのためには様々なイベントの実施や、情報提供が必要。
- ・ヒバの原生林に行くと心が洗われる。森林教育の場として可能性が大いにあると思う。

【林業の低コスト化や人材育成に向けた取組】

- ・林業のイメージアップが重要
- ・低コスト化のために路網整備の推進が重要。
- ・研究機関、民有林との連携が不可欠
- ・林業大学の学生等、やる気のある青年たちをもっと生かすべき。
- ・日本の林業に適した林業機械の開発が必要。

【シカや松枯れ、ナラ枯れなどの森林の病虫獣害対策への取組】

- ・民有林と協力した広範囲での対策が重要。シカは見つけたら即捕獲すべき。
- ・捕獲したシカをどんどん食べるべき。
- ・シカ等はある程度の駆除は必要だと思うが、やみくもに駆除するのではなく、生物としての機能を十分に生かした政策を立てることが必要。
- ・被害木となる前、被害木となった後の木材活用体制の構築が急務。
- ・大変難しい問題なので幅広い方々からの意見を取り入れて行うべき。

問4 国有林に対して望むこと、国有林に求めること等について、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

- ・国の財産なので、保存して欲しい。
- ・自然景観を守って欲しい。
- ・生態系を考慮した広葉樹の植林や保育を行って欲しい。
- ・もっと多くの方々に国有林に関するイベントに参加出来るよう、市町村の広報等で知らせて欲しい。親子イベント等があると嬉しい。
- ・CLT等の技術で世界を先導して欲しい。
- ・国産材について、輸入材に負けない品質を保ち、国はそれを上手くPRして欲しい。

### 3 国有林について まとめ

#### ○普段の暮らしと国有林とのつながり

今回のアンケートでは、「密接なつながりがある」、「ある程度つながりがある」と感じた方は28人(無回答者1人を除く)中、それぞれ13人(46%)、10人(36%)となって合わせて8割を超え、モニター就任直後(H26.7)のアンケートより上昇しました。「つながりがある」と感じた理由として、モニター活動を通して国有林の果たす様々な役割を知ったためというご意見もあったことから、モニターの活動を通じて、国有林との関わりをより実感いただけたものと思っています。

一方で「あまりつながりがない」とお答えになった方は5人(18%)となり、理由としては、「国有林との接点が見だしづらいから」といったご意見がありました。今後は国有林を身近に感じていただけるよう、広報等を工夫する必要があると考えています。

#### ○国有林に期待する働き

モニター就任直後のアンケート、今回のアンケートとも「山崩れや洪水などの災害を防止する働き」が1位となりました。他方、「心身の癒しや安らぎの場を提供する働き」、「木材を生産する働き」、「教育の場としての働き」といったモニター就任直後のアンケートでは票の少なかった項目で、今回は回答数・割合が上昇し、モニター活動を通してより多様な森林の機能への期待が高まったとも読み取れます。さらに、今回から項目に加えた「低コスト化」や「シカ対策」に対してもモニターの方々からの期待があることが分かりました。今後も国有林野事業に総合的に取り組んで、これらの期待に添えるよう努めてまいります。

### (3 国有林について まとめ 続き)

#### ◎総括

総じて2年間のモニター活動を通して、国有林をより身近に感じていただくとともに、国有林の果たす様々な働きについて理解を深めていただけたと考えております。また、「民有林との連携を推進すべき」等、国有林野事業について様々なご意見をいただきました。いただいたご意見を参考に今後施策を推進していきたいと考えています。

引き続きモニター活動を推進することで、国民の皆様にも国有林に関して理解を深めていただけるよう努めてまいります。

モニターの皆様には様々なアンケートにご協力いただきまして誠にありがとうございました。

頂戴したご意見は今後の業務の参考とさせていただきますとともに、今後も国有林野事業に対しご意見等いただければ幸いです。

重ねて御礼申し上げます。